

●梅雨が明け、空の青さに夏らしさを感じます。

●ハンゲショウ(半夏生)の不思議

●ハンゲショウは、水辺や湿地に生える植物で、6月から8月に花を咲かせます。不思議なのは、花の時期だけ花に近い葉の色が抜け、白い花びらのように見えます。これは、花粉を運ぶハナアブなどの昆虫に、花がどこにあるか知らせる役割があるといわれています。そして、花期が終わると再び緑色に戻ります。



①ハンゲショウ

■ハンゲショウの名の由来

七十二候(しちじゅうにこう)のひとつである「半夏生」の頃に葉が白くなるから、という説や、葉の半分が白くなり、半化粧のようであるから、など諸説あります。

今月の鳥 「コゲラ」

コゲラは全長13~15cmと日本で一番小さなキツツキです。通常は「ギー」と鳴きますが、繁殖期に入ると縄張り争いなどで「キッキキ」と甲高い声で鳴きます。小さいので固い木に穴を掘ることはできませんが、枯れ枝を見つけそこに巣穴を掘ります。キツツキが木をつつくのは、巣穴やねぐらを作るだけではなく、木の中にいる虫を捕るためやドラミングなどの目的もあります。コゲラのドラミングは短くて音が弱いのので、よく耳を澄ませて探してみてくださいね。

※ドラミングとは、求愛やなわばり宣言などのコミュニケーションのために木をたたいて音を出すことで、さえずりと同じ役割をするといわれています。



②コゲラ



●白く幻想的なカラスウリの花

●カラスウリの花は、白色で、特徴的な形をしています。花びらのふちが糸のように広がっており、複雑な形状をしています。夜にこの花に出会うと、まさしく幻想的な気分になります。しかし、開花している時間はとても短く、日没とともに咲き始め、翌朝にはしぼんでしまう一夜花です。



③カラスウリ

●ハスの果托(かたく)の変化

●ハスの果托は、花びらが落ちてから時間と共に変化していきます。中の種が成長するとともに果托も大きくなります。それと同時に、種を落とすために果托に何カ所も穴が空きます。茎が枯れて果托がうなだれてくると、中の種が風や重力でポトリと水に落ち、その種が次の代へとつながるのです。



④オオガハス

花びらや雄しべがなくなり、つるりとした果托が残ります。



雌しべがあった根元に穴が開き、中の種子が見えてきます。



果托が乾燥し、種が落ちる準備ができました。

★古河公方公園公式アカウントを開設しました！

公園の様々な情報をアップロードしますので、是非みなさまフォローをよろしくお願いいたします。

Instagram https://www.instagram.com/koga_kubou/

Twitter https://twitter.com/kubou_park

■Instagramアカウント



■Twitterアカウント



●こまめに水分補給をしながら、日陰などを利用して、熱中症に気を付けて公園散歩を楽しんでください。

【発行】(一財)古河市地域振興公社 古河公方公園(古河総合公園) 〒306-0041 茨城県古河市鴻巣399-1 電話 0280-47-1129

〇てくてく情報は公式ホームページからもダウンロードできます。

古河公方公園

検索